

日本財団「WORK FOR 東北」(復興庁協働事業) 被災地へTOTO社員を新たに2名派遣

TOTO株式会社(本社:福岡県北九州市、社長:喜多村 円)は、日本財団「WORK FOR 東北」(復興庁協働事業)(*1)に賛同し、2014年4月より社員3名を被災地に派遣しています。第一陣3名の任期が今年3月に終了するため、新たに社内公募を行い、復興に強い意志を持った2名を2016年4月より自治体へ派遣することが決まりました。

「WORK FOR 東北」は被災地の人材ニーズと、人材派遣を検討している企業などをマッチングし、復興を推進する活動です。

TOTOでは、この派遣を社会貢献活動のひとつと位置付けており、創造力豊かな自律した「人財」(*2)の育成や社員のモチベーションアップなども目的としています。今回の社内公募でも、復興に強い意志を持った「人財」の応募があり、面接により適性などを考慮しこの2名に決定しました。



<写真左より>

樋口 喜代彦(ひぐち きよひこ)
所属:TOTO オキツモコーティングス 開発課
赴任先:宮城県 石巻市

丸 なみこ(まる なみこ)
所属:水栓グローバル企画グループ
赴任先:岩手県 釜石市

(*1)「WORK FOR 東北」詳細は下記公式ホームページを参照ください。

日本財団「WORK FOR 東北」(復興庁協働事業) 公式ホームページ URL: <http://www.work-for-tohoku.org/>

(*2)「人財」

TOTOでは、人材は会社の将来を担う貴重な財産であるため、「人財」という表現を使用しています。

■TOTOグループが参画した背景

下記を目的として、今回のプロジェクトに積極的に参画していきます。

社会貢献への積極的な取り組み

TOTOはCSR経営に積極的に取り組んでいます。特に「水環境基金」「どんぐりの森づくり」「小学校への出前授業」など、社員参加型の社会貢献活動を推進しています。

創造力豊かな自律した人財の育成

今までの職場では経験できない業務に取り組む機会をつくり、さらに自律した人財へと育成します。多様な人財の個性を尊重し、そこから生まれる新しい発想によって、豊かで快適な生活文化の創造を目指します。

社員のモチベーションアップ

「被災地へ貢献したい」という強い思いを実現するためにさまざまな新しい仕事にチャレンジすることで、やりがいやモチベーションアップへつなぐことを目指します。

■震災に関する主なTOTOグループの取組み

東日本大震災に関連して主に下記の活動を行っています。

義援金・募金

2011年3月16日 TOTOグループとして義援金1億円を日本赤十字社へ寄贈
TOTOウォッシュレットテクノより桜川市へ100万円を寄贈

2011年3月31日 社員有志および協力先による募金 1200万円を日本赤十字社へ寄贈
300万円をセラミックス産業労働組合へ寄贈
役員および役員OBによる義援金 300万円を日本赤十字社へ寄贈
TOTOファインセラミックスによる義援金 200万円を檜葉町と富岡町へ寄贈
トラベルウォッシュレット100台を被災地へ寄贈

2011年3月～

社内の募金システムにより毎月社員より募集を行い、小額ずつでも長期間募金を継続できる仕組みを構築しています。2012年からはグループ会社も含めた募金へと拡大し、累計募金額は1億1,686万円(2016年1月末時点)になりました。

集まった募金は、東北支社に設置した募金部会東北分科会で活用方法を検討し、被災された方々の実情に即した支援活動に充てられています。

支援活動

2011年より、さまざまな支援活動を行っています。

TOTOと労働組合「TOTO UNION」は、被災地での瓦礫撤去、農地整備、漁業支援など、有志によるボランティア活動を約3年にわたって共催しました。

現在は、TOTO東北支社を中心に、被災地で復興支援イベント等を開催・支援しています。住宅環境を早期に復旧するためのリモデルフェア、みなさんに楽しんでいただくための無料映画上映会や芋煮会などを開催しています。

その他、東北のさんまを使った「さんままつり」を開催したり、被災地の物産を株主優待商品に採用するなど、少しでも被災地の皆様のお手伝いができるようさまざまな活動を推進しています。